

意見交換会 概要

湯浅教授がコーディネーターを務め、4名のパネリストとシンポジウム出席者の中で子供食堂の運営について意見交換が行われました。

【パネリスト】

近藤 博子 氏	気まぐれ八百屋だんだん店主
園田 愛美 氏	森の玉里子ども食堂副代表
堂園 春衣 氏	ナポリ通りのこども食堂@ナガヤタワー共同代表
西村 るり子氏	ほっぺ食堂代表

1 子供食堂では、教育、学習活動をどのように取り組んでいるか（会場から）

- 夏休みや冬休みなど長期の休みのときに、食事の前に勉強を見てやったり、小さな子供たちに対しては、学生さん達が折り紙や集団活動をさせたり、季節を感じさせる遊びをさせている。

また、子供たちの中には、外国語に興味を持っている子供もいて、ボランティアで海外の方を呼んだ際には、初めて話しをすることが出来たと喜んでいました。

勉強を教えることも大事だが、何か体験させることを大事だと思っている。

（パネリストから）

- 午前中、学校を借りて学習活動を行い、隣接する公民館で子供食堂の取組を行っている団体もある。（会場から関連意見）

2 医療関係者として、子供の口腔ケアや子育てなどお手伝いできないか（会場から）

- 医療関係の方からなかなかそのような申し出はなく、ありがたい。

私が子供食堂を運営する中では、食事のあと帰宅するまでに寝てしまう子供さんもいて、帰宅前に子供さんの歯磨きをするお母さんたちもいらっしゃるのので、自然にアドバイスをしたり、お手伝いする機会も出て来る。

そのような状況ですので先生の格好ではなく、自然な感じで子供食堂に関わっていただければと思う。（パネリストから）

- 活動の中で、歯科医師の方と知り合い、子供食堂で口腔ケアに係る取組を行う予定である。（パネリストから）
- 学校が発行する医療券というものがあれば、窓口負担がなく受診できるので活用していただきたい。（会場から関連意見）

3 子供食堂に関する自治体等の支援はないか（会場から）

- まず、衛生面における食中毒の問題です。市では、保健所の手洗いマスターに子供達の手洗い等について指導をしてもらっているが、子供食堂のボランティアの方々にも指導を受けていただくよう依頼している。

また、去年は、子供食堂を始めるにあたって、他の子供食堂の活動が見えないところがあったため、子供食堂の関係者が集まる機会を設定した。

今年は、11月に市で子供食堂を運営している方や今後計画している方々に対して、講師を招いて話しをしてもらったり、子供食堂のネットワーク作りのキッカケになるようイベントを企画している。

市としては、子供食堂を側面から支援する取組を考えている。(行政関係者)

4 子供食堂を高校生が気軽に立ち寄れる場所にするには (会場から)

- 最初は、小学生向けに作ったところもあるが、現在、中高生が家や学校以外、居場所が少ないという問題があり、どこか作ろうという動きもあるので、子供食堂が、そのような場所になって、看板などなくても口コミで広がっていけばいいと思う。

子供食堂は、食事を受ける場所だけではなく、ボランティアをする場所として来てくれている中高生もいる。(パネリストから)

5 パネリストが思う今後の課題等について (湯浅教授からの質疑)

パネリストからの意見等

- ボランティアで運営しているが、みなさん仕事を持っているので連絡がうまく取れない、また、みんなで集まって取組について打合せを行うことが難しい。
- 学習支援をやった方が良いんじゃないか、また、コミュニティを作るといいのではないか、との意見もある。
- ボランティアも90人程度の方が所属しているが、取組場所が狭いことから入りづらいとの意見もあり、落ち着いて学習支援や細かい取組が難しいとの声も聞こえる。
- 会場確保やキャパが問題になっている。
- 公共施設での開催は、駐車場やキャパの問題はあるが、他の団体の方にも取組を見てもらえるし、活動に対して理解いただいているところもある。
- 場所としては地域福祉館がある。

地域の福祉に寄与する団体として福祉団体ネットワークに登録すると6ヶ月間は優先的に活用でき、場所の確保とともに、光熱費も無料。また、調理室もあるので活用してはどうか。